島根県立大学短期大学部出雲キャンパス
研究紀要　第６巻，125－133，2011

住民による高齢者サロン運営の課題と対策

石飛多恵子*・上村　尚子*・神田　詩織*・竹田　麻衣*
辻原　信恵*・林　　亜衣*・平瀬　友梨*・藤川真基子*
山根　夏生*・小田美紀子・落合のり子

概　　要

一般高齢者の介護予防推進事業である高齢者サロン運営の課題と対策を検討する目的で島根県出雲市Ｃ地区の高齢者サロンに参加して実態把握をするとともに，サロンの世話役・福祉委員・参加者等に実施したインタビュー結果をサロン活動の継続の困難さに視点を当て分析した。

課題は①独居高齢者等の不参加②参加意欲維持の困難さ③働き盛り男性福祉委員の活動の困難性④世話役の高齢化と人材不足による活動の困難性⑤企画内容の工夫の困難性⑥活動記録等の保存と活用の不徹底⑦社会資源等の情報伝達と周知不足⑧予算確保の困難性・助成金の使途制限による使用の困難性⑨実施場所と回数の不足⑩実施場所の環境整備不足であった。

対策として社会福祉協議会，自治協会・保健師などがサロン運営の課題を共有する機会を持ち，サロンを運営する世話役や福祉委員への情報提供や必要な支援することが重要である。また，高齢者が主体的に参加できるよう協力を求めながら実施していく必要がある。

キーワード：高齢者サロン，高齢者支援，福祉委員，介護予防事業

Ⅰ．緒　　言

我が国では少子高齢化が急速に進んでおり，全国の65歳以上の高齢者の要介護認定者数は増加し続けている（内閣府，2009）。また，要介護高齢者の予備軍も増加している（内閣府，2009）ことから，自立状態を保つための予防的支援を含めた包括的な高齢者の地域ケアシステムプランが必要であると考えられる。そのため，全国的に介護予防事業及び要介護高齢者の介護サービスの充実を行い，地域全体で介護予防に向けた取り組みを行うことが必要といえる。これに加えて高齢者も主体的に介護予防事業へ参加することが求められている（永井，2008），（松浪，2007）。

島根県の高齢化率は，全国で2番目に高く29.2％（平成22年国勢調査速報版）である。出雲市の高齢化率は25.4％，Ｃ地区は23.8％であり，微増傾向にある（内閣府，2009）。このことから，Ｃ地区においても介護予防事業をさらに充実させることや，高齢者が主体的に介護予防事業に参加することが重要になってくる。

Ｃ地区は出雲市の北端に位置し，総面積は7.6㎢（市の4.3%）で７つの町からなる田園地帯である。

島根県立大学短期大学部専攻科：地域看護学専攻では，地域看護基礎実習の地域活動支援で，高齢者ふれあいサロン事業（以下，サロン事業）に参加してきた。出雲市が展開するサロン事業の位置づけを図１に示した。市高齢者福祉計画介護保険事業計画（第４期）の中では，介護予防の推進について，一般高齢者を対象とした介護予防事業は，健康増進部門と連携し，地区単位での健康づくりや介護予防普及啓発を行うとされている。また，高齢者自身がふれあいサロ

* 平成22年度島根県立大学短期大学部専攻科：地域看護学専攻修了生

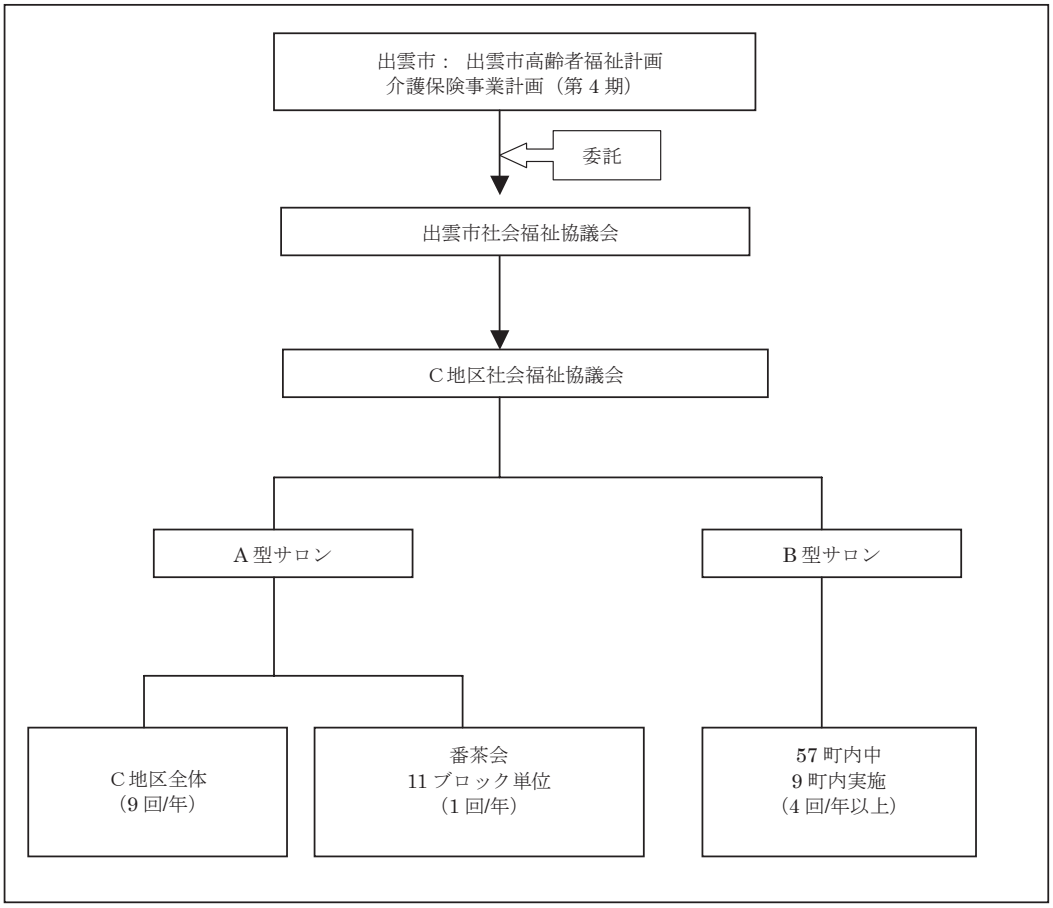

図１　出雲市Ｃ地区高齢者ふれあいサロン事業体系図

ンを開催し，自主的に通うことで介護予防に取り組めるよう支援していくと述べられている（出雲市，2009）。サロン事業の目的は，高齢者の介護予防，体力の保持増進だけでなく，高齢者同士の交流の機会とすることである。

現在，Ｃ地区ではＡ型サロンとＢ型サロンが行われており，Ａ型サロンはいくつかの町内を合わせたブロック単位で，Ｂ型サロンは町内単位で実施されている。平成22年度のＢ型サロンは57町内中９町内で実施している。多くの町内でＢ型サロンが実施されることが望ましいが，さまざまな事情によって実施したいと思っていても実施できない地区や実施しても参加者が少ない地区等，実施状況には地区差がある。

そこで，Ｂ型サロンが毎年継続して行われている地区の実情を知ることにより，他地区のサロン実施や活性化に繋げる事ができるのではないかと考えた。今回，Ｃ地区のサロン事業に参加し，現状や課題を踏まえ，今後の対策について検討した。

Ⅱ．方　　法

１．調査期間

平成22年10月１日～平成22年12月20日

２．調査対象

高齢者サロン参加者45名，Ｂ型サロン世話役１名，民生委員１名，福祉委員17名，出雲市Ｃ地区担当保健師１名

３．調査方法

Ａ型・Ｂ型サロンにおける参加観察法と対象者への非構成的面接法を用いた。

我々はＡ型・Ｂ型サロンに継続的に参加し，基本的にはサロン会場で参加者，世話役，民生委員，福祉委員にインタビューを行った．民生委員，福祉委員1名，サロン世話役については自宅にも訪問し，インタビューを行った。

表１　サロンの参加者・スタッフ・サロン内容

参加者	スタッフ	内容
Ｂ型サロン ・高齢者：12 名 （男性３名，女性９名，お世話役と補助含む）	・世話役１名 補助者２名	・挨拶，自己紹介，まめなくん体操，昼食，談話
Ａ型サロン ・高齢者：19 名 （男性６名，女性 13 名）	・福祉委員７名	・挨拶，自己紹介，まめなくん体操，川跡交番の話，昼食，クイズ
Ａ型サロン ・高齢者：22 名 （男性４名，女性 18 名）	・福祉委員９名 （男性４名，女性５名）	・健康チェック，血圧の講話（保健師），体操，フルート演奏，合唱，昼食
Ｂ型サロン ・高齢者：11 名 （男性３名，女性８名）	・世話役１名 補助者２名	・血圧測定，自己紹介，まめなくん体操，インフルエンザについての講話，談話
Ｂ型サロン ・高齢者：８名 （男性２名，女性６名）	・世話役１名 補助者２名	・血圧測定，自己紹介，まめなくん体操，花粉症についての話，ゲーム，昼食

４．調査内容

サロンの現状や課題，サロンへの思いや要望についての内容を中心とした。

５．分析方法

高齢者サロンの現状とインタビュー内容については，記録を行い，記述された内容から意味内容が変化しないようにまとめた。サロン活動に参加して分かったサロンの現状を「参加者」「世話役と福祉委員」「システム」に分けて記述し，インタビュー結果を対応させて課題を整理した。記録の分析は，信頼性，妥当性を高めるために３名の研究者の合意の上で行った。

６．倫理的配慮

調査対象者には，今回の調査目的および下記に示す倫理的配慮に関する説明を行い，同意を得た上でインタビューを行った。①研究の主旨および調査協力への参加は自由意思であること，②協力の有無にかかわらず利益・不利益がないこと，③調査で得られたデータは対象者個人や団体名が特定できない方法で分析し，論文の表記に配慮すること，④研究以外の目的では使用しないこと，⑤調査内容はデータの管理は施錠可能なロッカーに保管し，論文作成終了後すみやかに破棄すること，⑥研究結果を実習報告会や実習成果として論文として公表すること。

Ⅲ．結　　果

サロンの参加者・スタッフ・サロン内容は表１に示した。また，高齢者サロンの活動の現状，インタビュー結果，課題については表２に示した。

１．出雲市のサロン事業

Ａ型サロンは，出雲市高齢者福祉計画の中の一般高齢者の介護予防推進活動として位置づけられているサロン事業の一つである。出雲市では出雲市社会福祉協議会（以下，市社協）に委託して実施されている。

Ｂ型サロンは，同じく一般高齢者の介護予防推進活動である。65歳以上の独居高齢者，高齢者夫婦世帯，日中独居高齢者世帯を対象に，少人数（８名程度）の参加者が自宅から歩いて行ける場所で，福祉委員や世話役が中心となり，企画運営を行っている。現在，出雲市内の16地

表2　高齢者サロンの課題、活動の現状、インタビュー結果

課題		活動の現状	インタビュー結果
参加者	独居高齢者等の不参加	・Ｂ型サロンは，65歳以上の独居高齢者，高齢者夫婦世帯，日中独居高齢者世帯を対象としている。 ・独居高齢者や閉じこもりがちな人の参加は少ない。	＜世話役＞ 「独居高齢者など本当に参加するべき人が参加していないのではないか」 「参加は強制できないので、閉じこもりがちな人を誘い出すのは難しい」
	参加意欲継続の困難性	・世話役や住民から声かけをしてもらうことがサロン参加へのきっかけや促しとなっている。	＜参加者＞ 「世話役が直接声をかけてくれるから，毎回参加している」「月に１回元気な顔を見られることが嬉しい」「健康に気をつけようを思うきっかけになっている」 ＜世話役・福祉委員＞ 「欠席者にもサロン活動の様子を伝え、参加を促している」
福祉委員と世話役	福祉委員の活動の困難性	・福祉委員はＣ地区住民の中から，町内で各１名ずつ選出されている。任期は１～２年で，年齢制限はないが40～60歳代の働き盛りの男性が多く担っている。 ・各町内の福祉委員は交代で２名ずつコミュニティセンターで毎月開催されるＡ型サロンに参加し，サロンの運営、対象者への配慮やサロンの進行方法等について体験する機会を持っている。	＜福祉委員・世話役＞ 「Ｂ型サロンをもっと普及させたいと思うが、世話役の負担もあって難しい」
		・現在、福祉委員の大半が働き盛りの男性である。地域の高齢者の実情に詳しい人ばかりとは限らない。また、仕事がある平日に、Ｂ型サロンを開催するための直接の支援はしにくい。	＜福祉委員＞ 「福祉委員を男女で担うほうが、いろいろ役割を分担して頼みやすい」「男性だと情報収集や情報伝達，人の送迎が行いやすいし、女性だと，アイデアが豊富で手作りの品物も揃えることができる」
	世話役の高齢化や人材不足による活動の困難性	・福祉委員がＢ型サロンを運営できない町内で，福祉委員の代わりにＢ型サロンの企画・運営を行っているサロンの代表者である。参加者の中から選ばれていることが多い。Ｃ地区では，Ｂ型サロンを開催している９町内中，８町内で世話役がサロンの企画・運営を行っている。	
		・Ｂ型サロンの世話役は、自分自身も参加者である。 ・町内にはホームヘルパーの有資格者がいるが、有償ボランティアの活動を優先しており、世話役の人材にはなりにくい。	＜世話役＞ 「自分も高齢になっており、引き継いでくれる人がいないと不安です」「車を運転しないので、サロンに必要な品物の買出しの負担が大きい」「Ｂ型サロンを支える人材が必要で、準備など若い人が手伝ってくれると嬉しい」「婦人会や市社協で、サロンを支える人材を育成してほしい」
	企画内容の工夫の困難性	・世話役は，サロンをより良いものにしていくために，さまざまな工夫をしている。 ・開催案内の手間を省き、参加者が開催日を忘れないよう，毎月同じ日に開催する。 ・日常生活の中でレクリエーションに生かせることを探し，自分の趣味の幅を広げ，サロンへ活用できるよう努めている。具体的には、新聞、雑誌で紹介されたクイズや手芸のアイデアを取り入れている。	＜福祉委員・世話役＞ 「毎回内容を考えることが大変」「ゲーム等のアイディアでは、何をしたら良いか悩む」「近くの世話役同士で企画などの情報交換はしている」「社協からサロン活動に役立つ情報が自動的に入ってくることはない」
	活動記録の保存と活用の不徹底	・福祉委員と世話役などのサロン主催者は，年間計画書・報告書を地区社会福祉協議会に提出している。 ・世話役は、毎回サロン活動の内容を市社協の報告用紙に手書きで記載している。しかし，地区社協事務局へ提出したの後は，世話役の手元には記録が残らない。	＜世話役＞ 「毎回のサロンの内容や気づいたことをノートに記録している。引継ぎや記録物の受け継ぎはされていないし、そのような習慣はない」
	社会資源の情報伝達と周知不足	・Ｂ型サロンでは，企画・運営を行うのは主に世話役であり、たとえ福祉委員が情報を持っていても世話役に伝わっていない場合もある。	＜世話役＞ 「ボランティアや地域のグループ，利用できる施設の情報を得ることができないため，どう活用して良いか分からない」「健康講話などの専門的な話も企画に入れたいと思っているが，誰に頼めばよいか分からない」 ＜福祉委員＞ 「社会資源の活用に不慣れなため、どう取り入れていくか迷いがある」
システム	予算確保の困難感・助成金の使途に制限があることによる困難感	・サロン活動の予算は市社協から地区社協へ配分される助成金で賄われている。 ・高齢者サロン活動の増加により，地区社協から各サロンへ配分される助成金が減少している。そのため，講演会の講師謝金や施設利用費用の支出が困難になっている。 ・助成金は年度内に使い切ることが原則で、食事の材料費には使用できるが，弁当を購入には使用できない。交通費としてタクシーを利用する場合は、市内に限られる。	＜福祉委員・世話役＞ 「コストをかけられないので講演会などをしたいができない」「助成金の支出に関して制限があるため、使いたいものに助成金が使えない（弁当購入ができない、地区から近い施設へのお出かけでも市外だとタクシー利用ができない）」「助成金を使い切るために実費負担も出ている」
	実施場所と回数の不足	・地区全体のＡ型サロンには待機者がいるが，ボランティアの人材不足により，定員数の増加や回数の増加が難しい。	＜参加者＞ 「Ｂ型サロンをもっと増やしてほしい」「ブロックごとのＡ型サロンへの会場までは距離が遠く参加できない」 ＜福祉委員＞ 「自分の町内でＢ型サロンを実施したいが，対象者が基準の８名に満たないので開催できない」「他の町内と合同開催にすれば、経費や対象者の確保ができて良いかもしれない」
	会場の環境整備不足	・自分自身の健康状態が参加意欲や参加状況に影響を及ぼしている ・Ｂ型サロンの会場は座敷で、冷暖房の設備はあるが、安定して座ることのできる椅子はない。 ・玄関から座敷へ上の段差が高いが手すりは設置されていない。 ・手洗いは洋式トイレで手すりが設置されている。	＜参加者＞ 「ここまでは出られるけど、長時間は歩けないので遠出は無理」

区全てで行われ，Ｂ型サロンを行うにあたり，市社協から助成金が支給されている。

２．参加者の状況

Ｂ型サロンは，65歳以上の独居高齢者，高齢者夫婦世帯，日中独居高齢者世帯を対象としているが，実際には独居高齢者や閉じこもりがちな人の参加は少ない。世話役からは「参加は強制できないので，閉じこもりがちな人を誘い出すのは難しい」との声が聞かれた。

参加者からは「世話役が直接声をかけてくれるから，毎回参加している」「あまり人と集まる機会がないので，サロンへの参加が楽しみ」「月に１回元気な顔を見られることが嬉しい」「健康に気をつけようと思うきっかけになっている」「年寄りになっても誘ってくれる機会があって嬉しい」「もっと長生きしたいと思える」との感謝の言葉が聞かれ，世話役や住民から声かけをしてもらうことがサロン参加へのきっかけや促しとなっていることが確認できた。

世話役も，「欠席者にもサロン活動の様子を伝え，参加を促している」など，参加を継続させる働きかけを意図的に行っている。

３．福祉委員と世話役の状況

１）福祉委員の活動

福祉委員はＣ地区住民の中から，町内で各１名ずつ選出されている。任期は１～２年で，年齢制限はないが40～60歳代の働き盛りの男性が多く担っている。市社協の依頼を受けて，福祉に関わる行事への協力やＡ型サロンの番茶会の運営を担当しており，Ｂ型サロンの企画をしているのは57町内中９町内だけである。

現在，福祉委員の大半が働き盛りの男性である。地域の高齢者の実情に詳しい人ばかりとは限らない。また，仕事がある平日に，Ｂ型サロンを開催するための直接の支援はしにくい現状がある。「福祉委員を男女で担うほうが，いろいろ役割を分担して頼みやすい」との意見が聞かれた。

２）世話役の活動

福祉委員がＢ型サロンを運営できない町内で，福祉委員の代わりにＢ型サロンの企画・運営を行っているサロンの代表者である。参加者の中から選ばれていることが多いため，高齢者である。町内にはホームヘルパーの有資格者がいるが，有償ボランティアの活動を優先しており，世話役の人材にはなりにくい。「自分も高齢になっており，引き継いでくれる人がいないと不安です」「車を運転しないので，サロンに必要な品物の買出しの負担が大きい」「Ｂ型サロンを支える人材が必要で，準備など若い人が手伝ってくれると嬉しい」と切実な声が聞かれた。

３）企画内容の工夫

世話役は，サロンをより良いものにしていくために，さまざまな工夫をしている。毎回開催案内する手間を省き，参加者が開催日を忘れないよう，毎月同日に開催している。レクリエーションに生かせることを探し，自分の趣味の幅を広げ，サロンへ活用できるよう努めている。企画に悩むことが多く，「近くの世話役同士で企画などの情報交換はしている」が，「社協からサロン活動に役立つ情報が自動的に入ってくることはない」との声も聞かれた。

４）活動記録の保存と活用

福祉委員と世話役などのサロン主催者は，年間計画書・報告書を地区社会福祉協議会に提出している。世話役は，毎回サロン活動の内容を市社協の報告用紙に手書きで記載しているが，地区社協事務局へ提出した後は，世話役の手元には記録が残らない。そのため，「毎回のサロンの内容や気づいたことをノートに記録している。引継ぎや記録物の受け継ぎはされていないし，そのような習慣はない」ということで，記録の活用はなされていなかった。

５）社会資源の情報収集と周知

Ｂ型サロンでは，企画・運営を行うのは主に世話役であり，たとえ福祉委員が情報を持っていても世話役に伝わっていない場合もある。

世話役からは,「ボランティアや地域のグループ，利用できる施設の情報を得ることができないため，どう活用して良いか分からない」「健康講話などの専門的な話も企画に入れたいと思っているが，誰に頼めばよいか分からない」福祉委員からは,「社会資源の活用に不慣れなため，どう取り入れていくか迷いがある」と情報活用が十分できない現状が述べられた。

４．Ｂ型サロンの運営システム

１）予算の確保・助成金の使途

サロン活動の予算は市社協から地区社協へ配分される助成金で賄われている。高齢者サロン活動の増加により，地区社協から各サロンへ配分される助成金が減少しおり，講演会の講師謝金や施設利用費用の支出が困難になっている。助成金は年度内に使い切ることが原則で，食事の材料費には使用できるが，弁当購入には使用できない，交通費としてタクシーを利用する場合は市内に限られるなど制限がある。

「コストをかけられないので講演会などをしたいができない」「助成金の支出に関して制限があるため，使いたいものに助成金が使えない（弁当購入ができない，地区から近い施設へのお出かけでも市外だとタクシー利用ができない)」「助成金を使い切るために実費負担も出ている」など，予算確保や予算の有効活用に関する課題が挙がった。

２）実施場所と回数

地区全体のＡ型サロンには待機者がいるが，ボランティアの人材不足により，定員数の増加や回数の増加が難しい。

参加者からは「Ｂ型サロンをもっと増やしてほしい」「ブロックごとのＡ型サロンへの会場までは距離が遠く参加できない」との声がある。福祉委員は「自分の町内でＢ型サロンを実施したいが，対象者が基準の８名に満たないので開催できない」「他の町内と合同開催にすれば，経費や対象者の確保ができて良いかもしれない」との意見を持っている。

３）会場の環境整備

Ｂ型サロンの会場は座敷で，冷暖房の設備はあるが,安定して座ることのできる椅子はない。玄関から座敷へ上の段差が高いが，手すりの設置はない。手洗いは洋式トイレで手すりが設置されている。

参加者の中には足の具合が悪く「ここ（の会場）までは出られるけど，長時間は歩けないので遠出は無理」と歩行器や杖を使って来場する人もいる。

Ⅳ．考　　察

結果を整理し，高齢者サロンの活性化のための課題と対策を図２に示した。

１．高齢者等の主体的な参加への意識啓発

現在のＢ型サロンでは，独居高齢者等が不参加であっても声をかけにくいこと，高齢者への参加の呼びかけはほとんど世話役に依存している現状がある。

サロンは，高齢者の介護予防，体力の保持増進だけではなく，高齢者同士の交流の機会となることを目的として行われている。閉じこもりがちな独居高齢者が参加することができるよう，民生委員だけでなく，福祉委員や地域住民が独居高齢者等の把握を行い，積極的に促していくことが重要である。

また，福祉委員や世話役，ボランティアなど運営に関わる人だけではなく，参加者も一緒にサロンを作りあげていく姿勢が必要である。そのため，参加者もクイズやゲームなどのアイディアを提案し，会場設営や，お茶出しの準備を手伝い，家庭で作った料理を持ち寄るなどして，できる範囲で主体的に参加することが求められる。みんなでサロンを作ることが世話役の悩みを軽減し，さらなるサロンの活性化につながると考えられる。

２．福祉委員・世話役等への支援

Ｂ型サロンは，世話役が主体的に企画・運営を実施している町内がほとんどである。世話役の高齢化に伴い，サロンの運営・継続が困難な現状にある。今後は，福祉委員がもっと活動しやすい体制を作リ，サロン活動を発展・継続させる必要がある。

まず，町内ごとの福祉委員の選出において，町内で福祉活動が可能な人が委員になるべきである。サロン運営を支える福祉委員が自信を持って積極的に行動できるよう，交代でコミュニティセンターで毎月開催されるＡ型サロンに参加し，サロンの運営，対象者への配慮やサロンの進行方法等について体験することは良いことである。また，福祉委員同士の連携を深め，

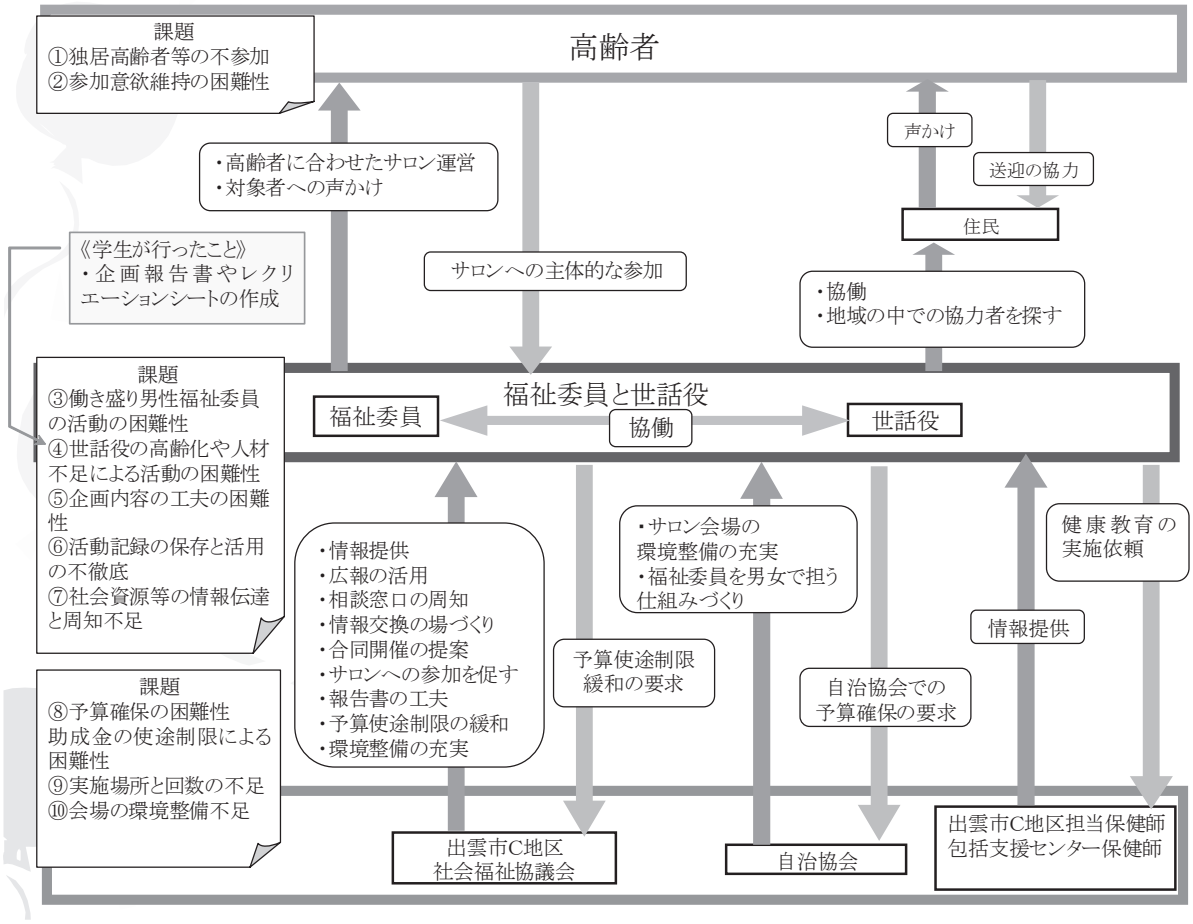

図２　高齢者サロン活性化のための課題と対策

企画づくり，社会資源の情報交換，記録の活用を積極的に行うことが重要である。ファクシミリ，パソコンやインターネット，デジタルカメラなどの情報関連機器を使えば，記録作成や保存，地区社協への報告は，短時間でできてしまう。活動の記録を今後の活動に生かすことができるよう，記載内容を統一し，後継者となる人が一目でわかるような工夫が必要である。地区社協の広報を用いて，サロンで活用できる施設や人材を紹介し，多くの地域住民に資源についての情報を周知することができると良い。

３．高齢者サロン運営システムの見直し

安定したサロンを運営するために予算の確保と限られた予算を有効活用する工夫が求められている。今後の高齢者の増加やサロン活性化のためには，費用を誰がどのように負担するかを考える必要がある。現段階では基本的に助成金の範囲での活動を考えているが，今後はサロン運営に必要な費用を検討した上で，不足分については参加者の個人負担の増額や自治会費などからの補助を検討することも必要であろう。また，現在ある助成金の用途の制限については，意見を踏まえ見直しを考えても良いのかもしれない。

高齢者にとって，家から歩いて行ける場所で開催される身近なＢ型サロンの充実が求められている。Ｂ型サロンの趣旨をさらに広め，協力者を募り，対象者が少ない町内については近隣の町内での合同開催を検討することも必要である。

対象者の健康状態や生活背景を考慮したサロン運営を行っていく必要がある。足腰が弱い人のためにサロン会場のバリアフリー化，介護の専門知識をもったホームヘルパーや元医療従事者などに参加を依頼し，必要な支援をしてもらうことも一つの方法である。

Ⅴ．結　　論

高齢者サロン運営の課題は，①独居高齢者等の不参加②参加者の参加意欲維持の困難性③働き盛りの男性福祉委員の活動の困難性④世話役の高齢化と人材不足による活動の困難性⑤企画内容の工夫の困難性⑥活動記録の保存と活用の不徹底⑦社会資源等の情報伝達と周知不足⑧予算確保の困難性・助成金の使途制限による使用の困難性⑨実施場所と回数の不足⑩実施場所の環境整備不足である。

対策として市社協・地区社協，自治協会，保健師から世話役や福祉委員への情報提供を的確に行ことが求められる．また，情報交換の場を充実させることや，サロン会場の環境整備を行う必要がある。世話役や福祉委員はサロンの運営に関してお互いに協力しつつも，住民にも協力を求めていく必要がある。また，サロン会場の環境整備，助成金の使途制限や記録内容・提出方法の見直しを，市社協・地区社協に呼びかけていくことが必要である。

参加者である地域の高齢者は，町内の住民同士で声を掛け合って，サロンに参加することが求められる。サロンの内容についてもアイディアを出し合うなど，主体的に参加する意識を持つことが大切である。

高齢者サロンの活性化を図るためには，住民同士の協力と共に，地域全体で取り組む姿勢を示すことが必要となる。今回の調査が，今後の高齢者支援の充実につながることを期待したい。

文　　献

出雲市（2009）：出雲市高齢者福祉計画　介護保険事業計画（第４期）平成21年度から平成23年度，7.

岩渕光子・工藤朋子・坪山美智子・他(2003)：地域で暮らす高齢者の主観的幸福感と自覚症状との関連，地域看護（34），147 - 149，2003.

総務省統計局（2010）：平成22年国勢調査速報　集　計，http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm,（2011.　9，20確認）.

内閣府（2009）：高齢社会白書，2 - 9.

永井由希子・原祥子（2008）：男性高齢者がとらえる通所型介護予防事業への参加の意味，老年看護，39，9 - 11.

松浪容子・古瀬みどり（2007）：過疎・高齢化が進むA町の高齢者サロンに参加する地域高齢者の健康に対する意識と介護保険に対する認識・ニーズ，地域看護，38，165 - 168.

服部愛子，畑瀬友紀子，平野千晶，藤村薫，前原佳織，松本彩花，光井絵里，宮園知子，吉中愛美，小田美紀子，落合のり子（2011）：地域活動への住民参加を促すための保健師の支援方法，島根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要，５，149-160.

Problems and Measures of the Elderly Person Salon Administration by Inhabitants

Taeko Ishitobi*, Shyoko Uemura*, Shiori Kanda*, Mai Takeda*,
Nobue Tsujihara*, Ai Hayashi*, Yuri Hirase*, Makiko Fujikawa*,
Mikiko Oda and Noriko Ochiai

Key Words and Phrases：elderly people salon, elderly people support,
welfare committee,
preventive service to long-term care

---

* Graduate of The University of Shimane Junior College, Specialty Course：
Community-based Nursing Course in the Class of 2010